

やまがた農の匠

～令和6年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 大豆の部(個人) 高畠町 萩原 拓重 氏



萩原農園のみなさん
(左2人目：萩原拓重氏)



レーキ式除草機

品種	すずかおり
収量	336.9kg/10a
経営面積	26ha (うち大豆 13ha)
Point 適期播種と適正な生育量管理で、大豆の高品質多収を実現	
高収量技術の肝	
<ul style="list-style-type: none">出芽・苗立ちをそろえることを第一に①圃場周縁部及び圃場中央部への明渠設置と、サブソイラによる弾丸暗渠で透・排水性の向上②圃場ごとの土壌条件に合わせたきめ細やかな耕耘を実施している。基肥は前作の生育状況を踏まえ、「鶏ふん」または「石灰窒素入り化成」から選択し全層施肥。さらに、播種時の「石灰窒素入り化成」側条施肥により初期生育量向上を図っている。出芽後はこまめに中耕・培土に入り（レーキ式除草を含め4回）、土壌環境の向上と雑草の抑制に努めている。開花直前の追肥や、生育過剰な場合は摘芯で適正な生育量に管理している。収穫後は、大豆粒径選別機のほか色彩選別機を通し、必要に応じて手選別を実施し、高品質な大豆出荷を心掛けている。一部を大豆菓子用として加工販売しているほかは、全量実需者との契約栽培とし、9品種を作付けしている。	

やまがた農の匠

～令和6年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 大豆の部（団体）

河北町 株式会社奥山農園



奥山喜幸 専務取締役

品種 里のほほえみ

収量 306kg/10a

経営面積 58ha（うち大豆 14.8ha）

Point

基本技術の徹底と畝間かん水で、高品質・高収量を確保！

高収量技術の肝

- ・ ブロックローテーションを実施することで地力を維持するとともに、畑雑草の蔓延を防止している。
- ・ 圃場ごとの土壌条件に合わせて、額縁明渠等の排水対策を実施し、出芽・苗立ちを安定させている。
- ・ 基肥に発酵鶏ふんを用いることで、地力の維持・向上に努めるとともに、肥料費の削減を行っている。
- ・ 中耕を1回、培土を2回実施することで、雑草の抑制、排水性の向上、収穫ロスの低減に努めている。
- ・ 開花期の高温乾燥時には、畝間かん水を実施し乾燥ストレスを低減させることで、着花率を向上させ、収量・品質を高めている。

やまがた農の匠

～令和6年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 そばの部(個人) 鶴岡市 齋藤 和博 氏



齋藤 和博 氏

品種	(常陸秋そば)
収量	87.7kg/10a
経営面積	13ha (うちそば 1.6ha)
Point 条播栽培による出芽苗立ち安定、収量確保	
高収量技術の肝	
<ul style="list-style-type: none">新たに導入した条播機により、全ての圃場で安定した出芽苗立ちを確保できている。 また、今後の経営面積増に対応した安定生産が可能となっている。額縁明渠施工による排水対策を徹底し、湿害を回避している。前年の生育や収量、地力等を考慮して施肥量を決定している。	

やまがた農の匠

～令和6年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 そばの部（団体）

飯豊町 有限会社 アグリメントなか



有限会社アグリメントなかの皆さん



圃場の様子

品種 山形BW5号

収量 91.7kg/10a

経営面積 85ha（うちそば20.5ha）

Point

適期刈取と丁寧な乾燥調製で実需が求めるそば作り

高収量技術の肝

- ・ 圃場を団地化し、作業の効率化を図っている。
- ・ 堆肥の連用により、地力の維持と土壌の物理性の改善に努めている。
- ・ プラウによる深耕で根域を確保し、生育量確保と子実の充実を図っている。
- ・ ドリル播きにより圃場全体の出芽安定を図っている。
- ・ 「山形BW5号」を作付けし、2段階乾燥と温度管理の徹底による丁寧な乾燥調製を行うことで品質向上に努め、実需が求めるそばづくりを行っている。

やまがた農の匠

～令和6年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 飼料用米の部（個人）

酒田市 柿崎 助一郎 氏



柿崎 助一郎 氏

品種 ふくひびき

収量 801.8kg/10a

経営面積 3.8ha（うち飼料用米 0.6ha）

Point

生育状況に合わせた適期・適量の穂肥で収量を確保

高収量技術の肝

- ・ 50 株/坪の疎植栽培で倒伏を回避している。
- ・ 浅水管理や土壌の異常還元防止のための水交換・田干しを実施し、初期茎数の確保に努めている。
- ・ 有効茎確保後は速やかに中干しを実施し、生育調節と登熟根の伸長を図っている。作溝も併せて実施することで中干しの効果が高まり、登熟期間の水管理も効率的に行うことができる。
- ・ 登熟向上のため、生育診断に基づいた適期・適量の穂肥を実施している。令和6年は生育状況を判断し出穂10日前に窒素成分2kg/10aの穂肥を実施した。

やまがた農の匠

～令和6年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 飼料用米の部（団体）

飯豊町 株式会社グランファーム I I D E



取締役 佐藤 仁史 氏



圃場の様子

品種 ふくひびき

収量 763kg/10a

経営面積 14.6ha（うち飼料用米 4.9ha）

Point

耕起深と団粒構造を確保した土壌環境づくりで安定多収を実現

高収量技術の肝

- ・ スタブルカルチを使用し、耕起深の確保に努めている。
- ・ 代かきをし過ぎず土の団粒構造を確保しながら、根の活力維持を図っている。
- ・ 鶏ふん等有機物を継続して施用し、土づくりに取り組んでいる。
- ・ 一発肥料の側条施肥により初期生育を確保している。
- ・ GPS 機能搭載の田植え機やトラクター、ドローンを導入するなどスマート農業に積極的に取り組んでおり、作業の効率化を図っている。
- ・ 圃場毎の地力を考慮した肥培管理を行い、低コスト多収栽培を実現している。